

## 『現代山岳信仰曼荼羅』（藤田庄市 著）

奥多摩を歩くと小さな山の頂や祠等に大峯神社のお札が置いてあることがある。富士山の古道にも有った。こんな小さな山々にまで紀州の山奥から大峯山の修験者が訪れていることに何度も感動した。この本はその修験者たちの現代の実態を記録した本だ。著者は日本山岳修験学会評議員・国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンター研究員という肩書きを持つ方だ。

初めに高尾山修験道から始まり、富士登拝修行を取材し、御嶽山信仰や国東半島の六郷満山。そして羽黒修験秋峰から大峯山脈と日本全体の修験の報告をしている。

私は今でもこんなに修験道が広がりを持っているとは思わなかったのが驚いた。著者は修験者ではないが、修験者に頼んで、一緒に修行に参加しているという。この本は本人の体験が豊富に語られているのでリアリティーがある。著者は日本写真家協会会員でもあるので豊富な写真が理解を助けてくれる。

第一章は富士山登拝だ。高尾山の山伏は富士登拝修行を高尾山から山中を徒歩で行っている。江戸時代に富士講が盛んになると高尾山は富士山の「前立ち」としての信仰が起き、人々は江戸から甲州街道を通り、高尾山を抜け富士吉田に泊まり、富士登拝をした。富士登拝もいろいろなスタイルがあるようだ。田子の浦から村山古道を抜ける聖護院富士山峰入りの道。高尾山修験霊峰富士登歩練行の道。丸山教富士登山の道など、未だに多くの修験者がこれらのルートを使って登拝していることがわかる。

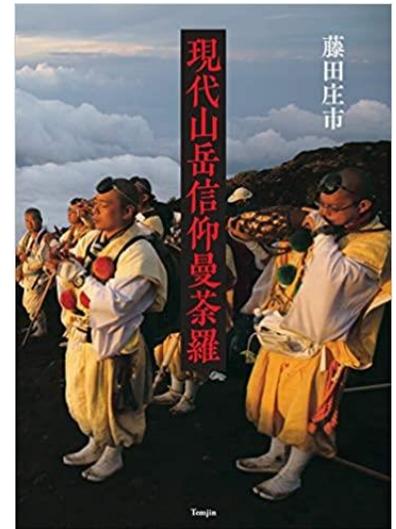
第二章は御嶽山（おんたけさん）信仰の霊山群を扱っている。御嶽山信仰がこんなにあるとは知らなかった。木曾の御嶽山・秩父の御嶽山・「狛狼」の両神山・上州武尊山・八海山などに御嶽山信仰が広がっている。思わぬ山が御嶽山信仰と繋がっている。

第三章は国東半島六郷満山の峰入り。国東半島は断崖に仏が多く彫られていることで有名だ。このエリアも濃い地域であることが解った。

第四章は羽黒修験・秋峰。

第五章は大峯山脈の修験の様子だ。吉野山から山中深く奥駈修行を紹介している。伝説の洞窟や前鬼裏修行場の神秘性などを紹介している。真冬の那智 48 滝など江戸時代の資料にしか残っていない滝を探し出しては修行を行うなど意欲的な修験者が多い。

明治維新の廃物稀釈により、多くの修験伝統は危うく断ち切られる所だったようだ。修験道は山岳修行によって自然と一体化する世界だ。日本の自然崇拜の文化の中に仏教が融合した形が修験道だそう。最後の大日如来と結ばれる「聖護院深山灌頂」（じんぜんかんじょう）という修行記録は私が 2017 年 6 月に歩いた奥駈道の前鬼小仲坊（ぜんきおなかぼう）と重なるので読んで興味深かった。このような山岳信仰が脈々と伝わっていくことは、日本の山の文化の幅を豊にすると改めて感じた。（FUKA）



現代山岳信仰曼荼羅 藤田庄市 著

2020年12月27日 山と溪谷社 発行 1800円